

大谷寺の石仏群



東の磨崖仏と知られる 技巧を究める石仏

本尊の千手観音はじめ、脇堂の釈迦三尊・薬師三尊・阿弥陀三尊の合計10軀の石仏は、日本の石像彫刻中、優秀なる技巧を究めたものとして、昭和29年3月に国の特別史跡に、昭和36年6月には、重要文化財に指定されました。西の白杵磨崖仏（大分県）に対し、東の磨崖仏として知られ、美術的にも優れた貴重な石仏です。

御止山と景観公園

日光「華嚴の滝」に 次ぐ国の名勝に指定

大谷寺の御止山は、自然の大谷石奇岩群と、赤松の織り成す風光明媚な景勝が「陸の松島」と称賛され、国の名勝（平成18年7月）に指定されました。栃木県では、日光の「華嚴の滝」に続いて2つ目の指定です。



大谷観音（千手観音）について



大谷寺外観と御止山

日本のシルクロードと 呼ばれる千手観音像

大谷寺本尊千手観音（高さ4m）は、平安時代（810年）弘法大師の作と伝えられています。古くから大谷観音と称され、鎌倉時代に坂東19番の霊場となり、多くの人々から尊崇されてきました。最初は、岩の面に直接彫刻した表面に赤い朱を塗り、粘土で細かな化粧を施し、更に漆を塗り、一番表には金箔が押され金色に輝いていました。最新の研究では、バーミヤン石仏との共通点が見られることから、実際はアフガニスタンの僧侶が彫刻した、日本のシルクロードと考えられています。



日本最古の石仏「大谷観音」

大谷寺

おおやじ

国指定 特別史跡・重要文化財・名勝
坂東十九番札所